



2022年度活動報告

集約版

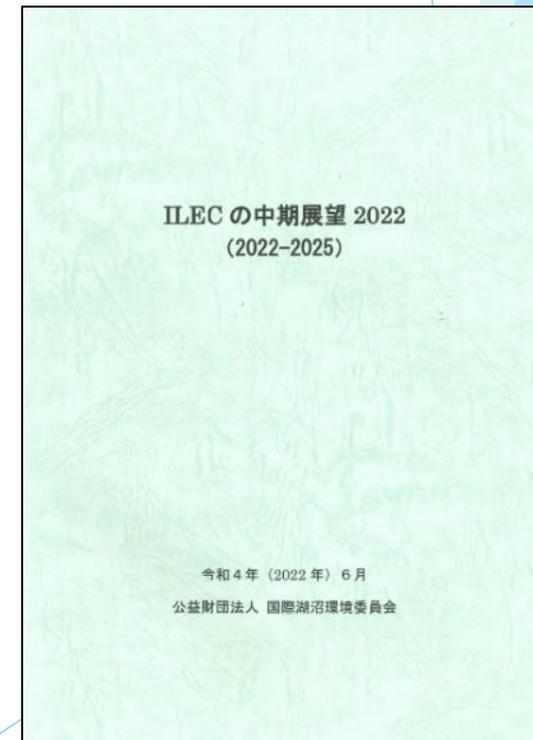
(公財) 國際湖沼環境委員會

報告事項

1. ILEC中期展望2022の策定
 2. UNEP-ILEC国際Webinar開催
 3. ILEC科学委員会総会 開催
 4. 国際シンポジウム2022 開催
 5. 湖沼のエコツーリズムコンテスト 開催
 6. WLC19第1回現地準備会合
 7. UNEP現地会合
 8. 「国連2023年水会議」出席
 9. 世界銀行関係者との協議
 10. JICA-ILEC課題別研修
 11. JICA課題別研修オンラインAlumni
 12. 環境省インドネシア事業
 13. リンボト湖保全と管理オンラインWS
 14. 琵琶湖モデル発信事業
 15. ILBM普及・モデル事業
 16. 地域社会貢献活動
- まとめ

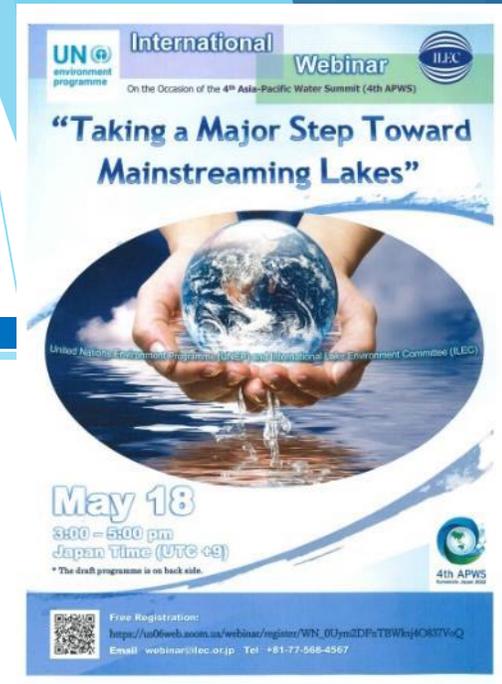
1. ILEC中期展望2022の策定 (2022年6月)

「ILECの中期展望2022」(2022-2025)は、
2022年5月の理事会および6月の評議員会での
議論に基づき、まとめられた。



第4回アジア・太平洋水サミット関連イベント

2. UNEP-ILEC国際Webinar開催 (2022年5月18日)



テーマ：『持続可能な湖沼流域管理に向けた今後の展望』

主催：UNEP & ILEC

日時：5月18日（水）15:00～17:00（日本時間）

主な登壇者：

- UNEP、インドネシア政府
- 日本政府環境省（川又課長）、ILEC廣木理事
- ILEC科学委員：ウォルター委員長、レニー委員

視聴者：20カ国、135人



3. ILEC科学委員会総会 開催 (2022年10月12-13日)

主な協議内容：

- ILEC中期展望2022に基づく活動方針の共有
- UNEA5.2決議「持続可能な湖沼管理」の推進
に向けた活動戦略
- UNEPとの連携による人材育成、
トレーニング開発の方向性

出席者：

科学委員7名、竹本理事長、中村副理事長、
高橋理事、松井評議員（オブザーバー）、事務局長



4. 国際シンポジウム2022 開催 (2022年10月15日)

テーマ：『未来につなぐ湖沼の価値』

目的：湖沼の価値を守り、高めるための取組を共有し、
未来につなぐ議論をWLC19に繋げる

主催：UNEP、ILEC、琵琶湖博物館

日時：10月15日（土）13:30～16:30（日本時間）

開催場所：琵琶湖博物館ホール

（同時通訳有 / 会場、オンラインによるハイブリッド方式）

参加者：20カ国、175人

基調講演：同志社大学教授 大和田 順子 氏

グローバルネイチャーファンド トーマス・シェイファ 氏

パネリスト：UNEP、インドネシア政府

日本政府環境省、滋賀県、ILEC科学委員、ILEC副理事長



5. 湖沼のエコツーリズムコンテスト 開催 (2022年10月15日)



目的：次世代を担う若者への湖沼の文化的資源の活用を考える機会の創出する。

日時：10月15日（土）10:00～12:30（日本時間）

審査員：

平安女学院大学教授 山本芳華氏

公益社団法人びわこビジターズビューロー会長
川戸良幸氏

滋賀県立琵琶湖博物館副館長 亀田佳代子氏

滋賀県琵琶湖保全再生課長 中嶋洋一氏

滋賀県琵琶湖保全再生課参事 望月孝幸氏

ILEC科学委員 アジット・パットナイク、
アレハンドロ・ファレス



審査結果	所属	タイトル
最優秀賞 および視聴者賞	成安造形大学	「たどる」を「たのしむ」エコツーリズム
優秀賞	NPO法人国際ボランティア学生協会 (IVUSA)・京都外国語大学	びわ湖の研究者になろうツアー
優秀賞	立命館大学	トレイルランから始まるエコツーリズム
特別賞	一般社団法人SwitchSwitch	400年の歴史を体感する！ 伝統漁法サステナブルツアー
ILEC賞（参加賞）	びわこ豊穰の郷・立命館大学	ホテルの飛翔する川づくりを取り入れた、 滋賀県の魅力を広めるエコツーリズム
参加賞	近江うららかネット・神戸大学	ヨシ・ツーリズム
	滋賀県立大学	若者にとって魅力的な三方よしのエコツーリズムとは？
	京都産業大学	新たなフードツーリズムで琵琶湖独自の エコツーリズムを！



6. WLC19第1回現地準備会合 (2022年11月8-11日)

第19回世界湖沼会議開催地であるハンガリー・バラトン
フュレドを訪問し、開催予定地等の現地視察および会議内
容の検討を行う第1回現地準備会合を実施。

出席者：バラトン湖開発局、ILEC中村副理事長、ウォルター科学委員長、
ILEC事務局職員

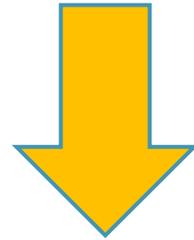
視察訪問場所：Helikon Castle博物館、Kis-Balatonビジターセンター、
バラトン市庁舎、バラトン水理学研究所 ほか



7. UNEP現地会合 (2022年11月14 - 17日)



UNEA5.2決議を受け、今後のUNEPと連携した人材育成・トレーニング開発に向けた協議を行うため、現地会合を行った。



**UNEP、ILECが共同し人材育成・教材開発に取り組む。
双方によるコンセプトノートを策定し取組を進める。**

8-1.「国連2023年水会議」出席 (2023年3月21-24日)



3月22日にはUNEPとインドネシア政府の共催で開催された
サイドイベントに登壇。

琵琶湖が直面してきた課題とその解決を踏まえ、今後のILEC
の取組を発表。

UN 2023 WATER CONFERENCE
Side event of the UN 2023 Water Conference
Wednesday, 22 March 2023, 17:00-18:15 EST
Room CR-8, UN Headquarters, New York
https://sdg.un.org/en/for/2023/water-2023

**“From UNEA to General Assembly:
Taking action for Sustainable Lake Management
- as a catalyst to accelerate global commitment
in the Water Action Agenda”**

Speakers:

1. Prof. Utami Nurbaya, Minister of Environment and Forestry, Indonesia
2. Ingrid Andersen, Executive Director of UNEP
3. Sri R. Bellanario, Director General of Environmental Pollution and Degradation Control, Ministry of Environment and Forestry, Indonesia
4. Dr. Mercedes Huerta, Executive Director of Samsat
5. Dr. Susana Gerlicher, Director of Policy and Strategy, UNEP
6. Dr. Jo Purni, Associate Vice President for Strategy and Knowledge Department, IPAD
7. Lucie Silsby Martin, Director of Urban Water and Informal Sanitation Management, Department of Climate Change, Energy, the Environment and Water, Australia
8. Dr. ILEC Coordinator, Director of Green Economy and Multi-stakeholder Cooperation Unit
9. Inga Hopwood, Director of Inland Waters and Aquatic Rehabilitation, Ministry of Environment and Forestry, Indonesia
10. Lis Muller-Berthelme, Freshwater Unit, Marine and Freshwater Ecosystems, UNEP
11. Nina Raasivaara, Coordinator WWSA, Global Environment Monitoring Unit, UNEP
12. Dr. Saranajayan Zardoya, Program Specialist at Division of Water Sciences, International Hydrological Programme (IHP), UNESCO
13. Dr. Masahisa Nakamura, ILEC
14. Kojo Hozono, ILEC
15. Wendy Dieringa, Global Youth Movement for Water

Co-facilitators:

1. Dr. Joaquin Martin, Head of Freshwater Unit, UNEP
2. Dr. Taty Talybekova, Deputy Programme Director for UNFPA and UN Habitat, Indonesian Embassy in Nairobi

Co-facilitators:
Event on 2023 Water Conference



2023 SALATON WORLD LAKE CONFERENCE ILEC Mother Lake Goals Lake Biwa, Shiga, Japan

Lake Biwa Experiences

- Up to 20th Century: Floods, Droughts and Conflicts
- 1950s-1970s: Dramatic Degradation
- 1970s-1990s: Overcoming Pollution, but Ecosystem Degradation Set In
- 2000-2025: Restoration with Broad Societal Engagements

Lake Biwa: a World's Agricultural Heritage Site

2023 SALATON WORLD LAKE CONFERENCE ILEC Mother Lake Goals Lake Biwa, Shiga, Japan

ILEC's Commitments:

- World Lake Conferences with SLM Focus
- Capacity Development with Regional Focus
- Scientific Knowledge Development and Sharing
- ILBM Platform Development Support for National Governments

With Support from:
Shiga Prefecture
Japan Government
UN Agencies
ILEC Scientists





UN
2023 WATER
CONFERENCE

NEW YORK
22-24
MARCH
2023

8-2.「国連2023年水会議」 ILEC科学委員の活躍



国際連合カナダ政府常駐代表部で行われた「持続可能な開発に関する国際研究所」の主催するサイドイベントではウォルター科学委員長が登壇。持続可能な湖沼管理に関する発表を行った。



国連本部で開催されたスペシャルセッションのパネリストとしてアジット・パットナイク科学委員が登壇。チリカ湖における市民参加型のボトムアップ事例を紹介した。

9. 世界銀行関係者との協議 (2023年3月25 – 29日)



ワシントンにおいて、今後の持続可能な湖沼管理（SLM）プロジェクトに向け、世界銀行環境専門官等との協議を行った。

元世界銀行職員との協議では、「第10回世界水フォーラム」がSLMを各国で実行に移すためのチャンスであり、そのためにもインドネシアとの継続的な連携の中から戦略的な方法を見出すことが必要との助言をいただいた。



10. JICA-ILEC 課題別研修 (リモート・来日研修)

「水資源の持続可能な利用と保全のための統合的湖沼・河川・沿岸流域管理」コース〔JICA受託事業〕

Part 1 (2022年9月1日～22日) リモート研修

Part 2 (2023年1月11日～30日) 来日研修 (3年ぶりに宿泊棟を利用)

- アルバニア、バングラデシュ、カンボジア、コートジボワール、ニカラグア、ナイジェリア、フィリピン、ボリビア、ボツワナの9カ国から9名が参加
- JICAニカラグア事務所から1名オブザーバー参加



1 1. JICA課題別研修オンラインAlumni (2023年3月13日)

2020－2022年度の研修履修生を対象に、アクションプランの帰国後の取り扱い状況や実施状況の情報共有を目的としたオンラインAlumniを実施。

研修履修生

ネパール、マレーシア、バングラデシュ、
アルバニア、カンボジア、ナイジェリア、
フィリピン、ボリビア

の8カ国から9名が参加



1 2. 環境省インドネシア湖沼水質改善技術協力事業 (2022年12月20 – 23日)

「インドネシアにおける湖沼水質改善のための技術協力事業」
〔環境省受託事業：2021 – 2024年（2年目）〕

インドネシア中央政府および地方州政府行政官を対象にインドネシア共和国の中央ジャワ州スマラン県において日本の事例を基に湖沼水質改善の条件や管理等を学ぶワークショップを実施。



1 3 . リンボト湖保全と管理オンラインワークショップ JICAインドネシア事業に協力 (2023年3月14日)

インドネシアの湖沼保全担当者と日本の専門家の相互理解を深めることを目的としてゴロンタロ州政府がJICAの協力を得て開催したオンラインワークショップに協力。ゴロンタロ州政府と日本の専門家合わせて約60人が湖沼の現状や解決策について意見交換を行った。



14. 琵琶湖モデル発信事業 (2022年11月7,9,11日)

「ベトナム地方行政機関職員受入研修」
〔滋賀県受託事業〕

ハロン湾・カッタバ島沿岸水域の水環境改善に向けた課題および活動を主体的に取り組める研修を実施。

ハイフォン市、クアンニン省より行政機関職員 6名が参加



15. ILBM普及・モデル事業 (2022年7月・10月)

「マレーシアにおける住民の生態系サービス共有価値評価
(PESSVA) の導入」

〔地球環境基金助成事業：2022－2024年（1年目）〕

- ▶ マレーシア国立水理学研究所（NAHRIM）職員3名を招聘し、PESSVAワークショップを実施。
(2022年7月24－30日)
- ▶ マレーシア対象湖沼関係者への事業説明と協力関係構築および事業実施詳細協議を実施。
(2022年10月25－28日)



16. 地域社会貢献活動

JICA関西の地域理解プログラムに協力 (2023年3月3日)

JICA研修員の日本理解の深化促進となる地域開発体験プログラム

「琵琶湖をめぐる開発と保全の教訓」に協力

会場：滋賀県立琵琶湖博物館

対応：中村副理事長、井手理事



地域社会貢献プロジェクトに協力 (2022年8月6日)

事業名：第3回 びわ湖まるっと親子セミナー

「びわ湖のプラごみクリーン活動」

開催場所：琵琶湖博物館ホールおよび烏丸半島

主催：近畿労働金庫、ILEC

共催：びわこ豊穰の郷、琵琶湖博物館

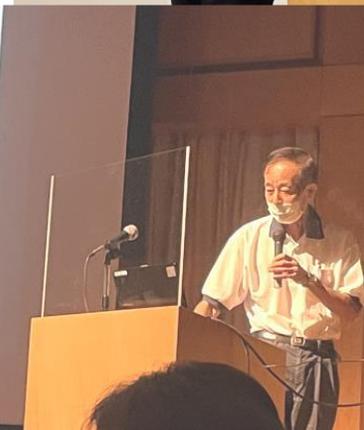
参加者：親子50名

- ▶ 「大切な水を守る技術」・・・堀場アドバンステクノ
- ▶ 「世界の湖沼環境と琵琶湖」・・・ILEC
- ▶ 「琵琶湖のプラスチックごみを考える」
・・・びわこ豊穰の郷
- ▶ 琵琶湖畔のごみ拾い



せき止め
と水面が
ます。

広い水
が溜まり



まとめ : Steps Moving Forward

「ILEC中期展望2022」に沿って、下記の活動を推進していく。

1. 科学的知見の集約 : ILBM活動の推進

→ UNEA5決議「持続可能な湖沼管理」(SLM)の実施に向け、UNEPと共同し統合的湖沼流域管理(ILBM)の重要性の世界的な普及・推進を目指す。

2. 科学委員会活動の推進

→ アフリカをはじめとする活動推進主体でのILBMの更なる推進およびSLM推進に向けた活動展開に向け、科学委員会活動の推進とその体制強化(フェロー・アソシエイト)を進める。

3. 国際協力の推進

→ SLMの世界的な推進に向けたWLCの戦略的な企画・実施を進め、「湖沼流域管理の主流化」の重要性を世界に発信する取組を進める。

4. 人材育成事業の推進

→ JICAおよびJICA研修履修生との連携強化を図り、より効果的な研修事業の推進を行う。また、UNEP等との共同によりSLM実現に向けた人材育成・教材開発を進めていく。

5. 地域コミュニティとの連携・協力の強化

→ 滋賀県および地域関係ステークホルダーとの一層の連携を図り、地域に根差した環境教育事業、国際活動の推進に引き続き協力していく。